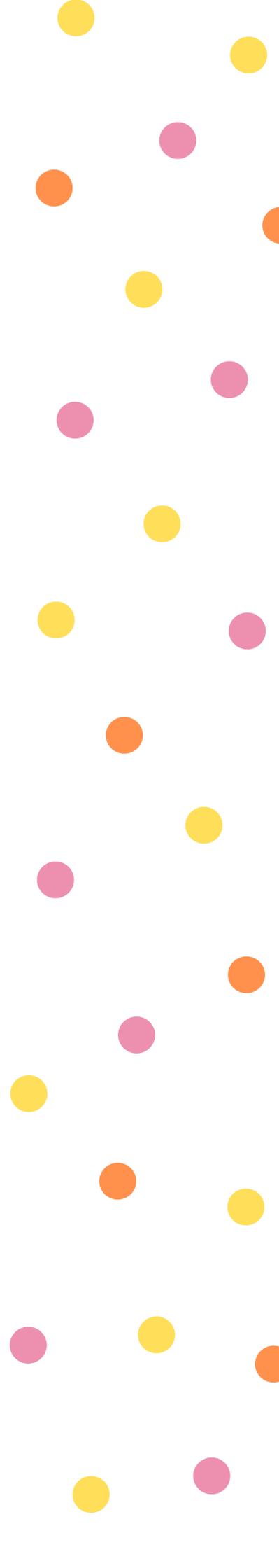




プクプクと、まちの未来をふくらませて。

大谷でまち育てBOOK

Vol.1



大谷でまち育てBOOKについて

この冊子は、静岡市大谷・小鹿まちづくり推進課、静岡市市民自治推進課、NPO法人ESUNEの3者による「令和6年度静岡市協働パイロット事業」の一環で生まれた事業の成果物です。

この事業をきっかけに、静岡大学生、静岡県立大学生を中心とした「大谷・小鹿まち育てプロジェクト」が発足し、インタビューを通じた住民・事業者の方との出会い、公開型の勉強会での学び合い、公民館を使ったイベントなど、様々な活動を進めてきました。

インタビューでは、お話をくださった方々から聞いた「大谷ってどんなまち？」という印象に加え、「これからどんなまちにしていきたい？」「まちにどんな変化が起きたらいい？」という想いも伺いました。そして、共有いただいた想いを味わいながら、冊子として編集しました。

「プクプクと、まちの未来をふくらませて。」

という言葉のとおり、この半年間、様々な方と出会う中で、まちの未来、そしてプロジェクトメンバーである私たちの未来もふくらんでいったような感覚を持ちました。

この冊子を読んでくださった皆様と一緒に、大谷というまちを起点に、欲しいまちの未来を、手づくりしていくような活動を進めていけたら嬉しいです。どうぞゆっくりと、読んでみてください。

2025年3月1日

大谷・小鹿まち育てプロジェクト

- 今坂 茉鈴（静岡大学グローバル共創科学部 2年生）
- 白土 優羽（静岡県立大学国際関係学部 4年生）
- 松永 理子（静岡大学農学部 4年生）
- 加賀 稜健（静岡大学農学部 4年生）
- 柳川 椿（静岡大学グローバル共創科学部 2年生）
- 杉浦 美咲（静岡県立大学食品栄養科学部 1年生）
- 天野 浩史（NPO法人ESUNE 代表理事／静岡大学サステナビリティセンター 特任准教授）

目次

まちで暮らす・働く人に聴きましたー「大谷ってどんなまち？」	—— 3
久保田 正一 さん (久保田建設株式会社)	
渡邊 海奈 さん (株式会社BGMs)	
深澤 恒紀 さん (静岡市立大谷小学校)	
山田 篤 さん (株式会社やまだサイクル)	
佐藤 孝志 さん (いちご園 三軒屋)	
兼高 友紀 さん (定食屋まるやま)	
イソヒヨベーカリー さん (イソヒヨベーカリー)	
長島 治雄 さん (大谷地区住民／静岡市大谷防災地区支部長)	
松永 理子 さん (静岡大学農学部4年生)	
大谷・小鹿まち育てプロジェクトでやってきたこと	—— 22
出会いが、暮らしの喜びと豊かさによっていく舞台をつくる ー地域プラットフォームでまちを育てる	—— 24
プロジェクトメンバーの振り返りレポート	—— 26



まちの文脈が、息づいている。そんなまちになったら。

久保田 正一 さん

久保田建設株式会社 代表取締役

聞き手：白土優羽、松永理子、今坂茉鈴、天野浩史

このまちで、どんなことをされていますか？

久保田建設の代表をしています。静岡大学から歩いていけるくらいの場所で、事務所を構えてもう50年ほどです。父の代から始まって、私は2021年から代表をしています。
注文住宅を中心に、クリニックの建築設計などを行っています。

久保田さんから見て、大谷ってどんなまちですか？

私が小学生の頃に静大ができて以降、静大生向けの食堂や小さいスーパーが増えていった記憶があります。当時は自転車で大学内を探検したり、大学生と遊んでもらったりしていました。静大生も、大学祭のシーズンになると、立て看板や模擬店で使うんだと思うんですが、資材を取りにきていたそうです。大学生が近くにいるまち、という印象が昔からありますね。

これから、どんなまちになって欲しいですか？

子育て世代にとって憩いの空間が増えるといいなと思います。歩いたり、遊んだり。それから、災害に強いまちであることも重要だと思います。

これからインター周辺から再開発が進んでいくと思うのですが、様々な人が、いろいろな関わり方をするまちになっても、お互いがやんわり共存できると嬉しいです。

もともと田んぼが広がっていた風景から、だんだんと住宅が建つようになり、それに伴って風の温度や吹き方も変化したような気がします。この地域の歴史や文脈を大切にしつつ変化していけると良いと思います。



そのためにどんな変化がこれからまちで起こるといいですか？

やっぱり、静岡大学が近くにあるというのは、このまちにとって重要だと思います。

かつて静大生がうちの事務所に資材を取りにきたり、大谷のお祭りに静大の学生が参加することもありましたが、今では無くなりました。コロナ禍の影響もあると思うのですが、こんなに近くに大学があっても、どうやって接点を持てば良いのかが分からないです。

例えば、うちの会社に、大学生がアルバイトに来てくれると嬉しいです。建築や設計という、まちに近い仕事に関心を持ってくれる若者が増えていくといいなと思っています。

そして私たちも、大学の学食に行くとか、大学に遊びに行ってみるとか、そういったことから始まっていくといい気がします。



久保田建設株式会社

所在地 静岡市駿河区大谷1455-5

1965年創業。注文住宅をはじめ、施設や店舗の建築設計・施工を手がけられてきました。子ども向けのワークショップをやられることもあるそうです。

お話を通じて



白土

大谷の話題だけではなく、久保田さんの京都時代のエピソードや建築の歴史のお話など、様々なお話から、聞き手の私たちも新しい発見、まちを見る視点をいただきました。また、メンバーの松永はお話を聞いた後日、実際に久保田建設さんでアルバイトをはじめました！温かくバイトするのを引き受けてくださって、バイトを通じて大谷の方や会社の方とも交流ができて、より大谷が好きになったそうです。



**交流を通して、
まちの人たちを笑顔に。**

渡邊 海奈 さん

株式会社BGMs

聞き手:加賀稜健

このまちで、どんなことをされていますか？

大谷に自宅兼事務所がありまして、そこでイベント会社を経営しています。委託を受けて、主に県内で開催される、特に子ども向けのイベントを企画・運営しています。例えば、商業施設の子ども向けイベントやホームセンターの子ども向けDIY体験会などです。

仕事とは別ですが、シーサイド大谷で月1回行われている子育てサロンのお手伝いにも行っています。このサロンのプログラムの一部を私が担当しています。

子育てサロンって、どんなことをされるんですか？

私は手遊び、親子体操、ミニゲームなどいろいろな催し物を担当する役割をしています。子育てサロンでは他にも紙芝居や読み聞かせといったいろいろなことをやるんですよ。良かったら今度来てみてください！パパさん達も来られますし、おじいちゃん世代の方もお手伝いに来られていますよ。

渡邊さんから見て、大谷ってどんなまちですか？

静かで住みやすいですし、人が温かいまちだなと思います。あと、公園が多いので子どもたちは遊びやすいかなど。私は15年くらい前にここに引っ越して来たのですが、その時にそういった印象を受けました。洋光台に住んでいるのですが、「海が見えてジブリみたい！」と思ってここに住むことを決めました。

この地域って行事が結構多めなんです。七五三も地域の神社でやっていますし、地域のみんなで海岸清掃をやったりとか。あと節分の時に子どもたちが地域のおじいちゃん、おばあちゃんの家に行ってお菓子を貰ったり、ゲームをしたりといったこともありましたね。元旦にみんなで初日の出を見たりしたこともありました。

これから、どんなまちになって欲しいですか？

まちづくりを通してより魅力のあるまちになればなと思っています。

ただ一方で、まちの行事や歴史が途絶えてほしくないなという気持ちもあります。娘が2人いて、このまちは「この子たちが育ったまち」になるのですが、子どもたちが「自慢できるまち」になればいいなという想いがあります。

「見守り隊」という小学生の登下校を見守るボランティアがあるのですが、この前うちの娘が見守り隊のおじいちゃんと一緒に途中まで帰ってきたみたいで、たくさんお話してもらったと嬉しそうでした。そういったこのまちの温かさはずっとあり続けてほしいなを思います。



株式会社BGMs

所在地 静岡市駿河区大谷2890-17

BGMのような心地よさとサプライズの『ワクワドキドキ』を演出するイベント運営会社として、2023年に設立。渡邊さんとお話していると、子どもたちの笑顔がたくさん浮かんできます。

お話を通じて



加賀

大谷は人とのつながりを大切にする温かいまちだなと知ることができました！

「地域行事」というのもまちづくりの大切なキーワードですね。

僕自身、まちづくりプロジェクトを担う大学生として、まちの行事や歴史を尊重しつつ、それらをもとに温かいまちにしていけたらいいなと思います！



子どもたちが、地域に誇りを持てるように。

深澤 恒紀 さん

静岡市立大谷小学校 教頭

聞き手:今坂茉鈴、松永理子

このまちで、どんなことをされていますか？

静岡市立大谷小学校の教頭先生をしています。

静岡市の出身で、教員になってから38年目になります。大谷小学校に来てからは3年目ですね。

深澤先生から見て、大谷ってどんなまちですか？

穏やかで心地の良いまちだと思います。そして、地域全体で子どもたちを育ててくれていると感じます。保護者の方は自分の子どもの学年に関わらず積極的に行事や授業のお手伝いに参加してくれますし、地域の人から子どもたちがこんな良いことをしてくれたから先生からも褒めてあげてほしいという電話が来たりするんです。大谷小学校は今年(2024年)で150周年で古くからこの町にあるということもあって、地域の方々は子どもたちや小学校というコミュニティを大切にしてくれているんです。地域全体で子どもたちを見守ってくれていて、褒めて育ててくれているところがこの地域の良さだと思います。

これから、どんなまちになって欲しいですか？

子どもたちがこの地域に住んでいることを楽しいと感じたり、誇れるまちになってほしいです。実は、自治会がまだ正しく機能していることって意外とすごいことで、そういった点や、地域のみなさんの思いやりが溢れていることだったり、今あるまちの良さを残して欲しいです。そして、子どもたちが思い描いた未来が反映されているようなまちになってほしいと思います。

そのためにどんな変化がこれからまちで起こるといいですか？

子どもたちもまちづくりに関わられるようになってほしいと思います。子どもたちや地域の方々にまちの良さを再発見してもらうために、まち探検ゲームといったイベントなどを開催して、実際に子どもたちが関係者として取り組みに参加できるようにしました。そして、大谷・小鹿地区のまちづくりに関して授業を行い、その経緯を説明したりそれに対し自分はどう思うのかを考えてみたりといった活動を行っています。これらの授業や行事を通して、子どもたちがまちづくりを自分ごととして考えることができるようになってきたと思っています。



静岡市立大谷小学校

所在地 静岡市駿河区大谷3683-2

150年の歴史を持つ小学校。いつも学校の近くからは、子どもたちの元気な笑い声が聞こえてきます。まちと共に、子どもたちも育っていく、そんな未来がふくらんでいくと嬉しいです。

お話を通じて



今坂

深澤先生が、子どもたちのことを一番に考えていらっしゃる事が、とても印象的でした。私たち大学生も、子どもたちと交流する機会が生まれると、きっと楽しいし、お互いに発見もあると感じます。公開作戦会議(勉強会)でも、子どもたち、遊び、学びというキーワードがたくさん出てきました。



学生の暮らしを支えて50年。これまでも、これからも。

山田 篤 さん

株式会社やまだサイクル

聞き手:柳川椿、今坂茉鈴

このまちで、どんなことをされていますか？

52年前から、自転車やバイクを売ったり修理したりするお店をやっています。
静岡大学の学生たちがよく来てくれるよ。

山田さんから見て、大谷ってどんなまちですか？

昔は山と畑と海、という感じだったけど、静岡大学が大谷の方に移動してきてきてから、農家さんがアパートを運営しはじめて、そこに学生が住んで…どんどん暮らしが変わっていったね。
僕の店では昔は食堂を営んだり、下宿なんかもさせてあげていたね。学生と一緒に餅つきとか、カラオケ大会なんかの催し物をたくさん一緒にやっていたよ。まるで家族のように暮らしていたな。
今はアパートがあっても人が入っていなかったりして、店の周りの人自体が減ってきちゃったね。

これから、どんなまちになって欲しいですか？

20年くらい前に東名高速道路のインターチェンジができてから、まちが変わってきた感じはするね。これからもどんどん、新しい施設がたくさんできて、外からも多くの人が来るようになると思うけど、それが大谷・小鹿、静岡市民にとって、本当に良いまちの発展の仕方なのかどうかは分からないよね。

その変化にバタバタと騒ぐことはないと思うけど、しっかりとその変化を見て、一緒にどう変化していくのかを考えていきたいね。

これからどんな変化がまちで起こるといいですか？

もう年齢が年齢だから、自分からどうこうしていきたくていう思いはあまりないかな(笑)

でも、人が根付いてくれるまちになっていくといいよね。学生さんだと、せっかく大学生の内の4年間静岡で過ごしても、やっぱり県外に出て行っちゃうからね。例えば、「農地を使って、学生の力を借りながら野菜を育てて、住民に安く売る」みたいなサイクルができればおもしろいと思うな。

こういう交流が増えて、良いまちだと思ってくれる人が増えて、まちに住み続けてくれる人が増えていって欲しいです。



株式会社やまだサイクル

所在地 静岡市駿河区大谷922-1

静大生にとっては、自転車や原付の購入・修理でお馴染みのお店。大学近くのBOLT ON YAMADAは姉妹店とのこと。

お話を通じて



柳川

長い間、お店を通して学生やまちの人の暮らしを支えてきたからこそ思う、まちづくりの在り方を聞くことができました！そして山田さんのあたたかい雰囲気を感じる、素敵な時間でした！



美味しいいちごを まちの人へ、これからも。

佐藤 孝志 さん

いちご園 三軒屋

聞き手:加賀稜健、白土優羽

このまちで、どんなことをされていますか？

20年ほど前からいちご農園を営み、直売所を運営しているよ。
ここで栽培したいちごを使った商品もいくつか販売していて、特にジャムは自分たちで手づくりしています。結構、人気商品です。

ずっとこの場所に住まれていて、感じている変化はありますか？

昔に比べると使われなくなる農地が増えて、荒地が多くなってきているなという印象はあるね。農業をやっていた方々の高齢化もあるし、かといって農地以外で利用することは難しい土地だったから。僕はそういった土地を、いくつかお借りして農園をやってるよ。

農作が行われなくなってきたなかで、なぜ佐藤さんは農園を始められたんですか？

もとは別の仕事をしていたんだけど、自分にしかできない仕事をしたいなというどこかに思いがあって…。実家が農家をやっている、農業がどんなものなのかある程度の知識や経験はあったから、自分もやってみよう。

そこで、いざ農業をやろうと思った時に、いろんな作物の中でも特にいちごがいいかなと思って、いちご農家を始めたんだよ。いちごはシーズンが長くて12月から5月まで収穫できるし、そのまま食べても美味しいし、加工してジャムとかケーキとかにできるからね！

いちご農家を経営しつつ、静岡の農業に少しでも貢献できればという思いも、心の隅にはあるよ。

これから、どんなまちになって欲しいですか？

個人的には、静かで住みやすいまちになればいいな。あとは走りやすい道路が整備されたら安心かな。この地域には子どもたちも多いし。

まちづくりに関して、最初自分は「わざわざそんなことしなくてもいいじゃないか」と否定的な立場だったけど、まちの活気がなくなっていくのも残念だし、今は「良いまちになればいいな」を思っているよ。移転先では今よりも商品規模を拡大していろいろなものが売ろうかなと考えているんだ。



いちご園 三軒屋

所在地 静岡市駿河区水上7-11

生産・直売のいちご農園。いちごジャムなどの加工品も販売されていて、とても美味しいです。再開発で移転予定ですが、これからも美味しいいちごをつくり続けて欲しいです。



お話を通じて

三軒家さんで買ったイチゴとイチゴジャム、美味しかったです！移転して新しくなったら、どんなお店になるのか楽しみです～。

これからもぜひたくさんの方に食べてもらいたいです。

加賀



静大生はもはや、 親戚の子みたい。

兼高 友紀 さん

定食屋まるやま

聞き手: 白土優羽、加賀稜健、柳川椿

このまちで、どんなことをされていますか？

家族で定食屋まるやまを経営しています。子どもの頃から大谷に住んでいて、子育てしながらこのまちで仕事をしています。

兼高さんから見て、大谷ってどんなまちですか？

子どものときは、たしか大谷街道沿いにはそば屋が3つ、ケーキ屋さん、喫茶店、ラーメン屋もいくつかあって賑わってたかな。当時からずっと続いているところもあるけど、どこも店主の年齢層が高いから、この先も変化していくまちだと思うな。

これから、どんなまちになって欲しいですか？

店から学生の日常が感じ続けられるエリア。

大学生が「ここに来たら、(地元の人を含めて)誰か人がいるから。一人でも安心して来れちゃう」と思ってもらえるような場所ができるといいなと思います。

日頃の学生と地元の人との交流が、万が一災害が起きたときとかに少しでも助け合いやすい環境につながればとも考えます。今の関係の薄さだと、隣にどんな人が住んでいるかも分からなくて、いざというときを想像すると不安な学生もいるんじゃないかな。

これからどんな変化がまちで起こるといいですか？

海岸清掃とか防災訓練のような、地域のイベントで顔見知りになったりした先に、私たちが近所の学生たちの「お節介焼き」みたいになって、親戚の子と関わり合うような場面がもっとあってもいいなと思う。

学生の生活に合わせて夜20時以降もお店を開けられたら良いんだけど、自分の子どもが小さいうちは簡単じゃないかもしれない。でも、そんな未来を見てみたいなと思っています。



定食屋まるやま

所在地 静岡市駿河区大谷1401-1

長年、静大生御用達のお店。カレードリアなど、卒業生も近くに来たら食べに来ます。



お話を通じて

地元の人と大学生とが顔見知りになって、地域で見守るような関係が生まれてほしいという想いが印象的でした。親戚のような関係、素敵です！

白土



isohiyo

BAKERY

Baked sweets and sourdough bread

暮らしを通して、心に豊かさを
生み出すために。

イソヒヨベーカリー さん

聞き手: 柳川椿、今坂茉鈴

このまちで、どんなことをされていますか？

地球環境史ミュージアムの近くに、去年の11月にお店をオープンしました。姉が焼き菓子を、妹がパンを担当して作り、販売しています。できるだけシンプルで、身体に優しいものをめざして、一つずつ心を込めて作っています。

イソヒヨベーカリーさんから見て、大谷ってどんなまちですか？

閑静で、自然が多くて、とても暮らしやすいまちだと思います！ですが昔と比べると、開発が進んで田んぼや広々とした土地が減ってしまいましたね…。山と海に囲まれていて自然が豊かな分、他のまちと比べると山が迫って少し狭く感じます。公園はたくさんあるけど、駐車場は併設されていないなんてこともよくあって、少しだけ不便さを感じることもありますね。

これから、どんなまちになって欲しいですか？

ただ単に「便利さ」からくる暮らしやすさというよりは、心に「豊かさ」が生まれる暮らしやすさを感じるまちになると良いと思います。例えば、大きな樹や草花が生えた広くてのびのびできる公園や広々として綺麗な、多用途に使える図書館があれば、住民の憩いの場になりますし、そこでイベントを開催すればコミュニティも生まれます。

スーパーも、いろんな価格帯と、オーガニック特化などといったコンセプトが違うところがあれば、「今日はここで買おうかな」なんていう選択肢が生まれます。新鮮な有機栽培の地場野菜を販売する場所がもっと近くにあったら尚嬉しいです。街路樹や公園を増やして、まちに樹をたくさん植えることで、ヒートアイランドを和らげる効果があったり、花や紅葉など四季を感じられて、思わず散歩したくなるような、風情ある空間を作れると思うんです。

こういった、日々の暮らしを楽しむことにつながる要素があって、豊かさを感じるまちになってほしいです！

これからどんな変化がまちで起こるといいですか？

今は特別何かをしたいというよりは、お店を拠点として交流を増やしたいです。

最近、お店に来てくださる地域の人同士が実はご近所さんだった、なんてこともよくあって、地域がこのお店を通じてつながっていている感覚を実感しています。こういった人と人のつながりは、暮らしの豊かさはもちろん、災害時の安心感にもつながります。地域に根ざした、みんなの交流の場、憩いの場としてお店が続いていくようにしたいですね。お店が落ち着いてきたら、マルシェを開いてよりたくさんの交流ができる場を作りたいです。

また、静岡の自然やよさを感じられる、ここにしかない、ここでしかつくれない何かを提供する場所がもっと増えてほしいです！



イノヒヨベーカリー

所在地 静岡市駿河区大谷5647-1

姉妹で経営される、焼き菓子と自家製酵母サワー種のパンのお店。2024年11月にオープンされました。ふじのくに地球環境史ミュージアム近くの静かな空間で、美味しい香りが広がるお店です。



お話を通じて

どこにでもあるものではなく、静岡ならではの活かした、心が豊かになるようなまちになってほしいという願いがすごく伝わりました！

そんなお店が、このまちにも増えてほしいです。

柳川



もっともっと、混ざり合っていくまちに。

長島 治雄 さん

大谷地区住民／静岡市大谷防災地区支部長

聞き手：今坂茉鈴、天野浩史

このまちで、どんなことをされていますか？

2011年に静岡に移住して、子どもの卒園を機に2018年に妻の実家のある大谷にやってきました。仕事は公務員です。大谷では、災害時の大谷地区の支部長を務めていて、地域の防災活動にも関わってきました。

長島さんから見て、大谷ってどんなまちですか？

コンビニやスーパーも数軒しかないので、商業施設が少なく、住宅街だと思っています。静岡大学が近くにあって地域のお祭りに関わってくれていた時期もあったけれど、コロナ禍の活動停止で今ではあまり見なくなってしまうと、学生と地域が十分つながっていない印象を持っています。一方で、まちの中に学生が入れるような場所もなかなかないよなあとも感じます。

これから、どんなまちになって欲しいですか？

学生たち若者と地域の関係の希薄さがあるので、今進んでいる再開発も含めて、もっと混ざり合っていけるまちになるといいなと思います。働く場所であったり、交流できる場所・機会であったり、せっかく大学が近くにあることを活かしたまちになると嬉しいです。あと、大谷はスポーツができる場所が多いから、そういった資源も活かせるといいですね。

これからどんな変化がまちで起こるといいですか？

大谷に限らず、地方は何もしないと衰退していつてしまうからこそ、人が入り乱れるというか、様々な交流が生まれ続けるように、変わってほしいです。外からも、中からも人が集まってくるようなことが起きていくといいなと思います。

あと、地域の伝統的なものが、十分生活の中に入り込みきれていない印象もあります。土地の神様を大切に奉ることをはじめ、これからも残していかなければならないものは大切にできるようにもしていきたいですね。



宮川公民館

所在地 静岡市駿河区大谷4135-11

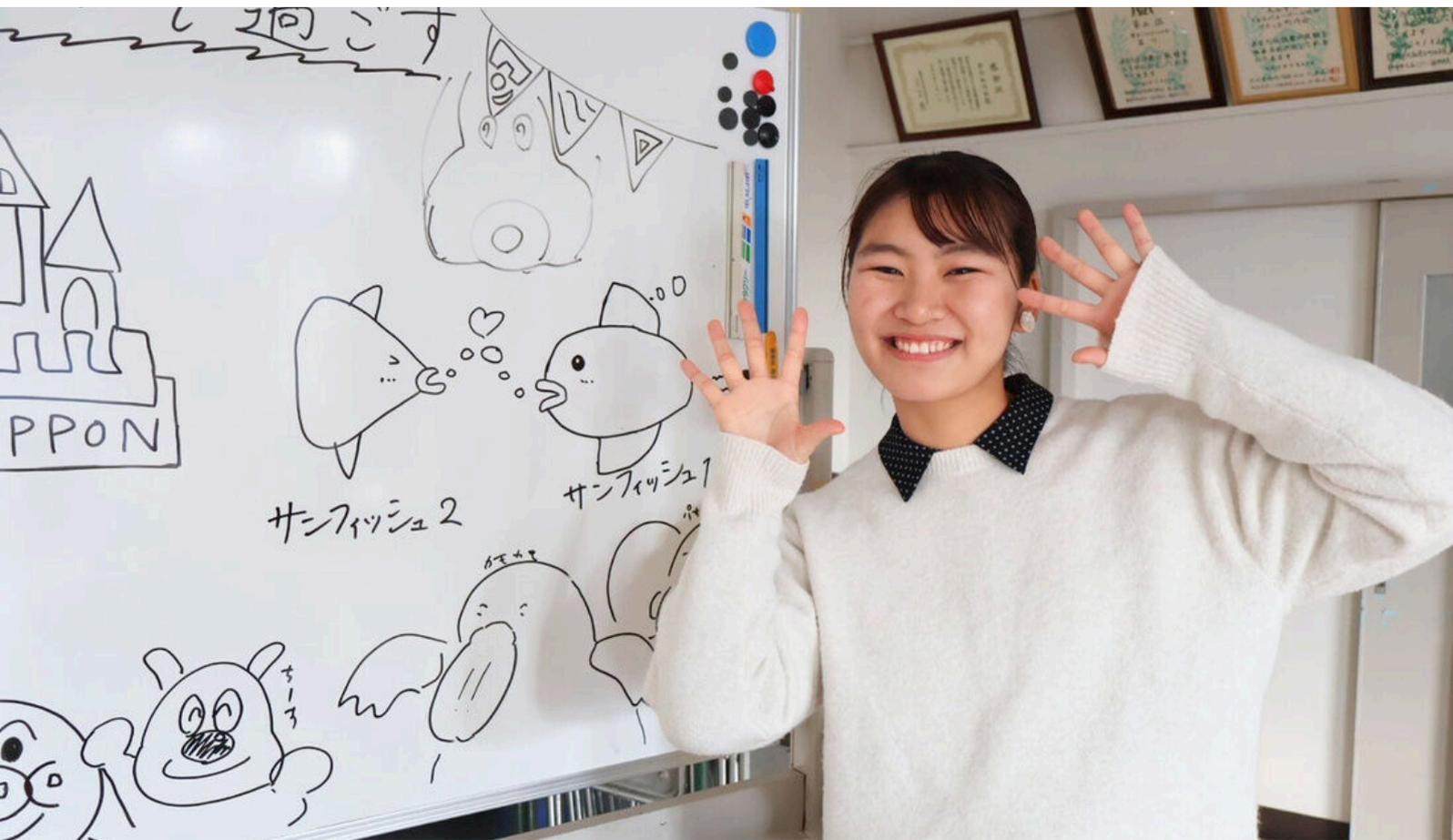
長島さんに教えていただいた、ご近所にある宮川公民館。コミュニティの拠点として、住民のみなさんが会合やイベントを行っています。私たちも、実際に使わせていただきました。

お話を通じて

多様な交流が生まれていく、混ざり合っていく中で、新しい関係性がふくらむ豊かな未来を共有するインタビューでした。大学が近くにあるからこそ、大学生と住民との関わりを紡いでいくことの重要性も再認識できました。



天野



心地よく巻き込まれていくまちに。

松永 理子 さん

静岡大学農学部4年生／大谷・小鹿まち育てプロジェクト

聞き手：白土優羽

このまちで、どんなことをされていますか？

大学生をしています。そして、大谷・小鹿まち育てプロジェクトのメンバーとして、みなさんにインタビューをさせていただいたり、勉強会を開催したり、公民館でイベントを企画しています。

松永さんから見て、大谷ってどんなまちですか？

住みやすいまち。治安が良くて穏やかな印象があるし、生活の空間が「守られている」ような地域だと感じるのは、関東圏から引っ越してきたからこそだと思う。

このプロジェクトに関わってからは、印象が変わったな。

人の動き・つながり、歴史があるのを知れたから、このまちがまちとして生きているのを感じています。

これから、どんなまちになって欲しいですか？

学生がもっと地域に根付いてほしいかな。

一人暮らしだからこそ、いち住民同士としてまちの人と関われる余白がまだあると思う。就職をきっかけに静岡市外・静岡県外に出たとしても、また帰ってくる場所になる人が増えると良いな。

静大は、名前に「グローバル」がつく学部もあるくらいだから世界に目を向けていっているけれど、だからこそ地域ありきの大学という側面も失ってほしくない。



これからどんな変化がまちで起こるといいですか？

きっかけさえあればどんな学生でも、楽しんで交わっていけると思うけどな。

私自身のことを振り返ってみると、やっぱり人とつながるのが大事なのかも。つながりができたら、だれかの「こんなことやってみたよ」みたいな小さな挑戦に影響をうけるし、やがて巻き込まれて巻き込んで…のくり返しで長期的に関わっていくようになりそう。

具体的にいうと、お祭りをやりたい！思い出をつくる機会にもなったらいいなと思う。



国立大学法人静岡大学 静岡キャンパス

所在地 静岡市駿河区大谷836

現在の大谷にキャンパスがやってきたのが1970年。55年以上、この大谷のエリアと共に歩んできた大学です。近隣のアパートで暮らす学生も多いので、もっとまちと混ざる機会を増やしていきたいですね。



お話を通じて

学生目線だからこそ、学生個人としてまちに交わっていく後輩が増えることを望んでいるんだね。私からみるりこりこ(松永)は、いつも自然体で楽しみながら人と出会っている大学生。改めてその想いを聴く機会になって良かったです。

白土

大谷・小鹿まち育てプロジェクトがやってきたこと

2024年8月ごろからスタートした、大谷・小鹿まち育てプロジェクト。約7ヶ月間の中で、たくさんの方が起きました。少し立ち止まって、振り返ってみましょう。

ACTION1 インタビュー活動を開始（2024年8月～2025年1月）

「まずは地域のことを知ろう」ということで芋づる式で地域の方をご紹介いただき、インタビューしました。お話を伺いながら、まちへの様々な想いに出会いました。



ACTION2 「公開作戦会議」という名の勉強会を開催（2024年11月～12月）

静岡県外からゲスト講師をお招きしての学びの会、具体的な活動を考える作戦会議を静岡大学で開催しました。静岡大学の卒業生も参加するなど、嬉しい出会いもありました。



ACTION3 「大学生、公民館で過ごす」を宮川公民館で開催（2025年1月）

公開作戦会議で「宮川公民館を使ってみてはどう？」と住民の方から提案いただき、1月26日に「大学生、公民館で過ごす」という「まずは使ってみよう」というイベントを開催。プロジェクトメンバーの友人や地域の方もお越し下さり、ご飯を食べたり、長縄で遊んだり、これから自分たちが企画したい場のイメージを確かめました。



ACTION4 活動をまとめた「大谷でまち育てBOOK」を制作（2024年12月～2025年2月）

記事の執筆と冊子編集を行い、今読んでいただいている「大谷まち育てBOOK」を制作しました。

第1回公開作戦会議レポート

2024年11月26日



第1回公開作戦会議では、「大学生と育む“まち育て”のはじめ方と育て方」と題して、お二人のゲストの方のお力を借りながら勉強会を開催。住民、企業、NPO、大学、そしてプロジェクトメンバーの学生と静岡市役所の関係者交えて16名で「まち育て」「大学生」というキーワードで学び合いました。

東京都世田谷区の尾山台でまちづくりを行う、一般社団法人おやまちプロジェクト代表理事の高野雄太さんからは、まちの当事者意識を持った人を増やすためには、課題解決思考ではなく、出会った人とのつながりを豊かにしていくことの重要性を実例交えてお話いただきました。「仲良くなる」という当たり前の言葉の深さを再認識しました。

横浜市で若者とNPOをつなぐ事業に取り組むNPO法人アクションポート横浜代表理事の高城芳之さんからは、学生たちとつくった「横浜アクションマップ」を紹介いただき、38団体の中から「この団体はすごい！」を教えていただきました。また、「地域と学生の関係から、〇〇さんと△△さんになること」という、名前呼び合える関係になることが大切とメッセージをいただきました。



お二人の事例紹介の後、参加者全員で対話しながら、このまちで生まれたい嬉しきこと、私がやってみたいことを共有しました。終了時に「LINEグループをつくって、第2回目の日程決めよう」となるほど、大盛り上がりな会議になりました。

第2回公開作戦会議レポート

2024年12月19日



第2回目は前回参加してくださった住民の方に加えて、新たな方も参加して「具体的なこれからの活動」について話し合いました。実は第1回目の会議で「季節感のある餅つきを大学でやってみよう」となったのですが、いろいろな規制やリスクもあって難航。であれば、あるものを活かした機会をつくってみようと、元々あった行事やイベント、今もある地域資源を教えていただきながら、公民館を使って何かをやってみようという話にまとまりました。

第2回公開作戦会議のアイデアを具現化したイベントが、「大学生、公民館で過ごす」です。様々な発見があったので、第3回の公開作戦会議にて、発見を活かした来年度の活動計画を再び考えていこうと思います。

出会いが、暮らしの喜びと豊かさに変わっていく舞台をつくる —地域プラットフォームでまちを育てる

NPO法人ESUNE 代表理事／静岡大学サステナビリティセンター 特任准教授
天野 浩史

私は、愛知県岡崎市出身で、2010年の大学進学と同時に、静岡市にやってきました。初めての一人暮らしで、知り合いは誰もいない中、不安な気持ちで始まった大学生活でしたが、縁あって参加したまちづくりの活動で一緒した方々との出会いがきっかけになって、そのまま静岡市に定住。静岡で生まれた社会関係が、静岡での暮らしを豊かなものにしてくれましたし、今では娘と一緒にまちづくりに参加しています。

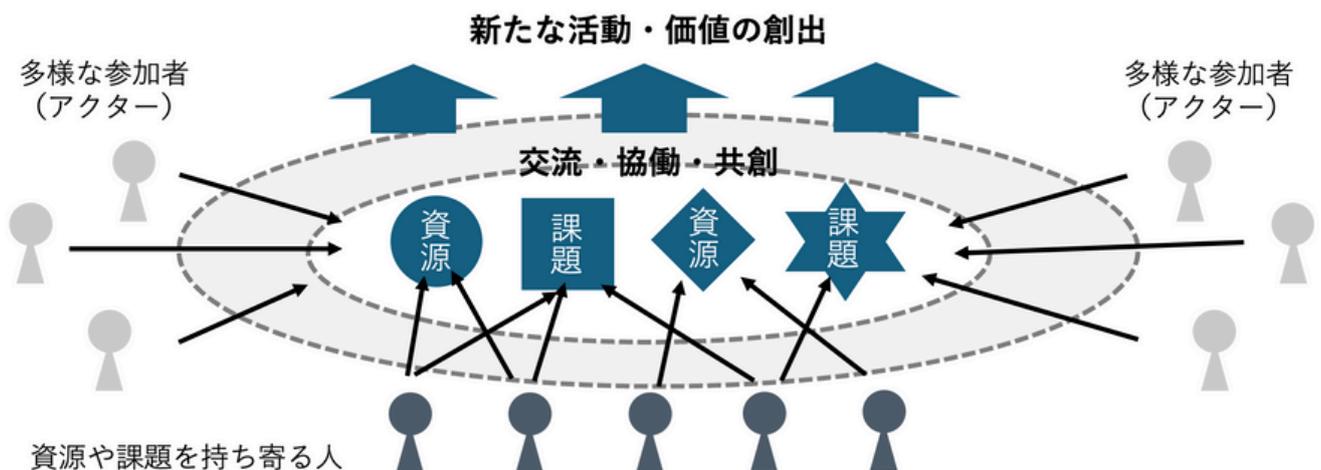
思い返すと、様々な人たちと地域で出会えたことは、当時大学生だった私にとって大きな転機だったように思います。そして、大学生に限らず、大人も子どもも、人との出会いが時に転機となり、暮らしや人生の喜び、豊かさがふくらんでいるのではないかと思います。出会うことによって新たな社会関係が紡がれ、未来が広がる舞台をつくることは、まさにまちづくりそのものです。

こういった「舞台」を、まちづくりやコミュニティデザイン論では、「地域(協働)プラットフォーム」と呼びます。例えば、飯盛(2021)は、次のように地域プラットフォームを定義しています。

地域プラットフォーム

人や組織などの多様な主体のつながりを生成し、相互作用によって予期もしなかったような活動を生み出すもの
飯盛義徳編, 2021, 『場づくりから始める地域づくり: 創発を生むプラットフォームのつくり方』学芸出版社より

図でイメージすると、分かりやすいかもしれません。



飯盛義徳, 2015, 『地域づくりのプラットフォーム: つながりをつくり、創発をうむ仕組みづくり』学芸出版社より
資源持ち寄りのプラットフォームをもとに天野作成

例えば、多世代が集まるような居場所づくりにおいては、「地域に暮らす子どもたちのために」という目的を持って場づくりをしていると、ご近所に住む方がふらりと「子どもたちにあげて」とみかんを持ち寄ってくれたり、大学生がチラシを発見してボランティアをしたいと尋ねてくれたり(資源の持ち寄り)、スマホの使い方がわからず困っている方や、「息子が学校に行かなくて心配」という悩みを親御さんが相談に来てくれたり(課題の持ち寄り)、様々

な人が場集ってきます。そして、多様な資源や課題が人と共に集まりながら、その場に集った人たち同士に新たなつながりが生まれ、例えば、大学生が「スマホの使い方、教えますよ」と力を貸してくれたり、ご近所さんが「ここに息子さんと遊びにおいでよ」と誘ってくれたり、交流・協働が生まれていきます。小さなことかもしれませんが、スマホの使い方でお困りの方、息子さんの不登校でお悩みの方からすると、こういった交流・協働は日常の困りごとや悩みに光が差し込むような、新たな価値に繋がっています。地域プラットフォームは、こういった「出会い」を生み出すことで、暮らしに新たな価値を創出しているのです。

人口減少・少子高齢化・小家族化(世帯人数の小規模化)と同時に、地域コミュニティの希薄化など、私たちの暮らしを取り巻く環境はより厳しさを増しています。だからこそ、すでに存在する活動や組織、そして住民の間に「心地よい」新たな結合を生み出すような社会的仕組みが必要とされています。暮らしの価値を創造することだけではなく、地震や風水害などの大規模自然災害時のレジリエンスを高めるためにも、つながりを豊かにしていくことは重要です。本事業における勉強会(公開作戦会議)において、ゲストでお越しくださった一般社団法人おやまちプロジェクト高野さんの「つながりを先につくる、仲良くなることを大切にしている」という視点、NPO法人アクションポート横浜高城さんの「名前を呼び合える関係を生み出す」という視点、そして両団体の取り組みから、「心地よいつながり」を基盤におくことは、まちを育み、人を育み、困難があっても乗り越える力を醸成していくのだと感じました。

大谷の住民や事業を営まれる方々のインタビューから、大谷というまちが持つ多世代のつながり、多様なイベントの存在を知ると同時に、海の近さや坂の多さなど、地理的特性による暮らしのリスク(津波・風水害や独居高齢者の孤立など)にも気づきました。また、まちに暮らす大学生との関わりの希薄さなどから、より多様な交流を求める声も伺いました。心地よい関わりができる機会を、まちという舞台でいかにつくっていくかが重要になると考えられますし、そこに地域プラットフォーム構築のアプローチは有効かと思えます。

しかし、地域プラットフォームはあくまで「手段・ツール」でしかありません。最も大切なのは、このまちに暮らし、生きる人々が欲しい未来を自ら描き、共に担っていく、地域における自治(ローカル・ガバナンス)が根底にあることです。言い換えれば、「誰かが」から「私が／私たちが」という思考・行動をすることです。これは、理念的・規範的に捉えられがちですが、欲しい未来を様々な人と協力しながら、手づくりしていくという、極めて創造的で、暮らすことを楽しくしていくようなアプローチだと思います。大谷で暮らし、関わっているの学生たちの振り返りは、自分らしくまちを担っていくことの面白さや喜びを感じさせてくれます。

出会うことが、暮らしの喜びと豊かさに変わっていき、自分の人生も広がっていく実感を持てる、そして、また人と出会いたくなる。大谷に関わる一人として、そんな未来を私も一緒につくっていきたいと思えます。

ミニコラム

大学生りこりこの

大谷でアルバイト中に聞いた話から



インタビューでお伺いした久保田建設さんで、アルバイトを始めました。その一環で、実際に大谷でお家を建てた方のお話を伺う中でも、かつてはもっとまちで大学生が出会う機会があったけれど、今、大学生とまちで出会うことは無くなっている(ゴミ捨て場ですれ違うくらい)ということをお伺いしました。携帯がない時代は、学生寮に住む学生に自宅の固定電話を貸していたこともあったそうです!

家を建てて、このまちで暮らしていられる方は、このまちと共に生きる覚悟があると感じました。一方で、大学生は4年間で一区切りになりますし、まちと共にという感覚は生まれにくいことも要因なのではないかとも思いました。しかし、私はこういった活動を通じて、このまちを離れても関わっていく機会が欲しいなと思います。どんな関わり方ができるか、これからも考えていきたいです。

プロジェクトメンバーの振り返りレポート

一緒に活動しているプロジェクトメンバーに、これまでの活動を振り返ってもらいました。

「大谷・小鹿まち育てプロジェクト」で活動してみて
感じている「おもしろさ」はなんですか？



白土 優羽

まちづくりやまち育てなどの言葉を使う一方で、まちという単位で活動内容を考えはじめたことを一旦やめ、一人ひとりの中にある「私がやりたいこと」に皆でフォーカスしていったこのプロセスが新鮮でおもしろかったです。そのおかげで、純粹に楽しい気持ちを中心に置いてプロジェクトを進められたし、不思議と人も材料も集まってくるような感覚がありました。そして計画や予想をある程度立てつつも、その外側で起こる出来事を仲間と共有できたことは、こういった活動をする一番のおもしろさだと感じています。これまで私たちの「企て」に関わってくださったみなさん、どうもありがとうございました。今後もこのプロジェクトを、よろしく願います！



加賀 稜健

普段の大学生活では会うことのできない人と会ってお話できることがこのまちづくりプロジェクトで感じた面白さのひとつです。大学生活の中で大谷・小鹿に住んでいらっしゃる地元の方とお話する機会はほとんどありません…。そんな中でこのプロジェクトに参加して、このまちのたくさんの方とお話できました。お話を聞くことも楽しかったですし、自分の知らなかったこのまちのお店や行事、文化などを知ることができて大学生側としてすごく面白かったです。自分と意外な接点がある人たちと出会うこともありました。今後このプロジェクトを通して大学生とまちの人が関わる機会が増えると、何か面白いものが生まれるかもしれないなと思っています！



柳川 椿

自分が「やってみたい！」と思って提案したことが、プロジェクトを通してどんどん形になっていって実現するのがとても面白いし、やりがいを感じます！また、このプロジェクトに参加していなければ出会えてなかっただろうな、という人たちと出会って、一緒に活動したりお話をしたりできるのも面白いです。これから、今よりもっと大谷・小鹿にいる人と、またいる人同士が繋がって行って、新しい活動が生まれていくと思うとワクワクします！



今坂 茉鈴

この地域に住んでもうすぐ2年経ちますが、地域の人とじっくり話し合える機会は今まで無かったので、話せるだけでもとても楽しいですし、その人自身や考え、経験を深掘って聞けることがとても面白いです。

例えば、私だったら地元のこれに対してこう思うなあということと真逆の考えを持つ人もいて、私にとってはそれが新しい発見でとてもワクワクしました。また、私には無い経験をしている人のお話は自分にとって新鮮で興味深かったです。ただ、地域を大切に思っている気持ちはみんな同じということが分かり、今後地域の人たちともっと沢山お話したり、一緒に何かこの地域でやりたくてうずうずしています！



松永 理子

活動を進めていくにつれて、自分の住んでいる地域について知れること、地域の歴史があって今も生きていることを実感できることです。私は、大学で静岡に来て、大谷に住んでいても大谷のことをあまり知らなかったですし、知る機会もありませんでした。自分が住んでいるまちのことを知れると、面白い家族が増えたような、気軽に寄れる場所が増えたような、そんな感覚を覚えます。大学生は定期的に入れ替わります。まちの方との交流、まちを知る機会を定期的につけて、仲間をどんどん増やして、大谷をこれからも盛り上げていきたいですし、就職で大谷を離れても、また帰ってこれるような場になって欲しいです。



杉浦 美咲

大学内で自分達の世代ではない静岡県民と交流する機会がないので、どこか勿体無い気がしていました。せっかくなら大学進学で来たこの街についてもっと知りたい、地元民と交流してみたいという気持ちがあったので、活動はとても新鮮で楽しかったです。普段喋らないような世代、職種の人たちと交流することは今までの自分の価値観が大きく変わる機会でもあるし、仲を深めることはとても楽しいことだと思うので、これからもっと多くの学生にも体験してほしいなと思います。

一緒にやりませんか？大谷・小鹿まち育てプロジェクト、常にメンバー募集中！



大学生たちが主体となってはじまったプロジェクトですが、今では大人の方も含めたゆるやかなネットワーク組織になりつつあります。最近では高校生が仲間入りしました！

まちでの活動の企画、まちづくりやコミュニティデザインに関する勉強会などを実施中です。ご関心ある方、一緒にやってみたいという方は、お気軽にメールでご連絡ください！

info@s-esune.com

大谷・小鹿まち育てプロジェクト
(事務局：NPO法人ESUNE)

学生の暮らしを 静大生はもはや
支えて50年。 親戚の子みたい

美味しいいちごをまちの人へ、これから

交流を通して、
まちの人たちを笑顔に。

息づいてい
まちの文脈が、
子どもたちが、
地域に誇りを
持てるように。

暮らしを通して、心に
豊かさを生み出すために。

心地よく巻き込まれていくまちに